

平成26年度ヤクシカ捕獲状況(許可捕獲)

平成26年度	4月～5月	6月～7月	8月～9月	10月～11月	12月～1月	2月～3月	計
上屋久町 猟友会	538 頭 (168%)	549 頭 (105%)	418 頭 (83%)	517 頭 (103%)	821 頭 (143%)	631 頭 (117%)	3,474 頭 (117%)
屋久町 猟友会	235 頭 (142%)	239 頭 (128%)	230 頭 (113%)	196 頭 (81%)	260 頭 (128%)	252 頭 (156%)	1,412 頭 (121%)
国有林	15 頭 -	111 頭 (195%)	155 頭 (194%)	182 頭 (150%)	80 頭 (58%)	10 頭 (21%)	553 頭 (125%)
職員・ 調査捕獲	15 頭	95 頭	124 頭	96 頭	59 頭	10 頭	399 頭
協定・官民 界有害捕獲		16 頭	31 頭	86 頭	21 頭		154 頭
合計	788 頭 (162%)	883 頭 (115%)	772 頭 (98%)	809 頭 (94%)	1,140 頭 (127%)	893 頭 (121%)	5,285 頭 (116%)

注:()内の割合は、前年度比

国有林欄の協定・官民界有害捕獲分は、両猟友会の実績に含まれているため、合計は上屋久町猟友会、屋久町猟友会、国有林(職員・調査捕獲)の実績を集計している。

出典:屋久島町資料、屋久島森林管理署資料

(参考)H25捕獲実績

平成25年度	4月～5月	6月～7月	8月～9月	10月～11月	12月～1月	2月～3月	計
上屋久町 猟友会	320 頭	524 頭	506 頭	502 頭	573 頭	541 頭	2,966 頭
屋久町 猟友会	166 頭	187 頭	204 頭	241 頭	203 頭	162 頭	1,163 頭
国有林		57 頭	80 頭	121 頭	138 頭	47 頭	443 頭
職員・ 調査捕獲		57 頭	80 頭	121 頭	123 頭	34 頭	415 頭
協定・官民 界有害捕獲					15 頭	13 頭	28 頭
合計	486 頭	768 頭	790 頭	864 頭	899 頭	737 頭	4,544 頭

出典:屋久島町資料、屋久島森林管理署資料

国有林の林道別のヤクシカの捕獲数と捕獲効率（CPUE）の推移

国有林では、わな猟による捕獲を実施しているが、捕獲にあたっては延べわな数、雌雄親子別の捕獲数等を記録している。

平成26年度の国有林における河川界別、月別の捕獲数等を表1に示す。

表1 平成26年度の国有林における河川界別、月別の捕獲数等

河川界No.	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1 (楠川前岳・小瀬田第2・小瀬田・鍋山林道)	延べ罠数	0	0	0	0	40	279	381	312	165	168	180	0	1525 個
	捕獲頭数	雄	親	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	4 頭
			子	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3 頭
		雌	親	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4 頭
			子	0	0	0	1	3	0	4	2	0	0	10 頭
	計	0	0	0	0	2	6	2	7	2	2	0	0	21 頭
2 (中瀬川・安房林道63支線・62林道)	延べ罠数	0	40	150	256	205	600	12	102	204	0	0	0	1569 個
	捕獲頭数	雄	親	0	0	1	1	0	7	0	1	0	0	10 頭
			子	0	0	1	2	2	13	0	1	0	0	19 頭
		雌	親	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	4 頭
			子	0	1	1	1	2	10	0	0	0	0	15 頭
	計	0	1	3	5	4	31	0	2	2	0	0	0	48 頭
6 (小瀬子林道)	延べ罠数	0	247	285	0	0	216	57	0	0	36	150	76	1067 個
	捕獲頭数	雄	親	0	4	2	0	1	0	0	0	0	0	7 頭
			子	0	1	0	0	4	1	0	2	0	0	8 頭
		雌	親	0	4	6	0	3	0	0	0	0	0	13 頭
			子	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	6 頭
	計	0	9	8	0	0	12	3	0	0	2	0	0	34 頭
9 (一湊・宮之浦林道)	延べ罠数	0	0	135	381	309	240	820	980	220	460	330	135	4010 個
	捕獲頭数	雄	親	0	0	6	14	10	20	33	39	10	6	140 頭
			子	0	0	1	2	3	7	5	6	2	1	28 頭
		雌	親	0	0	0	7	9	2	30	25	7	2	94 頭
			子	0	0	2	9	4	9	4	6	7	4	47 頭
	計	0	0	16	32	26	38	72	76	26	13	8	2	309 頭
10 (神之川・白谷林道・220支線)	延べ罠数	0	174	304	0	75	285	270	210	225	162	162	99	1966 個
	捕獲頭数	雄	親	0	2	9	0	4	17	5	2	5	0	44 頭
			子	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5 頭
		雌	親	0	2	15	0	3	6	3	6	5	0	40 頭
			子	0	1	4	0	1	3	4	0	2	0	15 頭
	計	0	5	31	0	8	28	12	8	12	0	0	0	104 頭
合計	延べ罠数	0	461	874	637	629	1620	1540	1604	814	826	822	310	10137 個
	捕獲頭数	雄	親	0	6	18	15	15	44	40	43	15	7	205 頭
			子	0	1	5	4	5	27	6	8	2	4	63 頭
		雌	親	0	6	28	8	12	14	34	32	14	2	155 頭
			子	0	2	7	10	8	30	9	10	11	4	93 頭
	計	0	15	58	37	40	115	89	93	42	17	8	2	516 頭
捕獲効率		0.0000	0.0325	0.0664	0.0581	0.0636	0.0710	0.0578	0.0580	0.0516	0.0206	0.0097	0.0065	0.0509 頭/個

(注) 平成26年4月から平成27年3月末までの数値。わな種は全てくりわなによる。なお、この集計には有害鳥獣駆除(37頭)は含まない。

表1より、国有林の林道における平成26年度の河川界別捕獲数は、河川界No.9が304頭(CPUE〔捕獲効率＝捕獲数/延べわな数〕：0.0800)、河川界No.10が104頭(CPUE：0.0529)と多かった。河川界No.9には一湊林道、宮之浦林道が、河川界No.10には神之川林道、白谷林道・220支線が含まれる。また、月別捕獲数は全体的には9月から11月までの秋期と6月の梅雨期に多い傾向が見られる。

続いて、平成22年度から26年度までの国有林の河川界別、林道別の捕獲数と延べわな数を表2に示す。

表2 国有林における河川界区分、林道別平成22年度～平成26年度の捕獲数等

河川界No	林道名	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数	捕獲数	延べわな数
1	楠川前岳林道					15	156	9	221	3	186
	楠川林道					1	6	14	341		
	第2小瀬田林道					2	78	39	1,109	3	300
	小瀬田林道	8	1,170			19	565	0	33	11	526
	船行林道	6	1,812	14	612	15	340	8	446		
	鍋山林道			17	1,288			24	745	4	513
2	中瀬川林道	26	1,586	5	434	7	126	19	373	40	1,020
	安房林道63支線			1	124	3	20	4	112	6	429
	淀川登山口周辺62林班									2	120
4	林道南部線					3	158	8	311		
5	湯泊林道	10	630			30	645	2	114		
	中間林道					3	50	1	113		
	栗生支線							5	254		
6	小楊枝林道	3	651			6	101	66	806	34	1,067
	小楊枝林道24支線					9	153				
7	大川林道	106	5,733	78	4,085	33	586				
9	一湊林道					97	514			83	1,200
	志戸子林道					3	41				
	桜並木道					3	104				
	宮之浦林道	185	4,876	144	5,104	41	849	96	1,116	226	2,810
10	自然公園湯之子線					13	67				
	神之川林道	123	2,745	43	1,840	110	1,069	126	665	22	134
	白谷林道・220支線	26	1,104	4	124			31	496	82	1,832
計		493	20,307	306	13,611	413	5,628	452	7,255	516	10,137

表2より、国有林の林道における年度別の捕獲数は、平成22年度が493頭（CPUE〔捕獲効率＝捕獲数/延べわな数〕：0.0243〔捕獲数/延べわな数〕）、23年度が306頭（CPUE：0.0225）、24年度が413頭（CPUE：0.0734）、25年度が452頭（CPUE：0.0623）、26年度が516頭（CPUE：0.0509）であった。

また、国有林における年度別の延べわな数と捕獲数の関係を図1に、林道別の延べわな数と捕獲数との関係を図2に、林道別、年度別の捕獲効率CPUE（捕獲数/延べわな数）との関係を図3に示す。

図1より、平成22年度及び23年度は、延べわな数に対する捕獲数の割合が少なかったが、平成24年度以降は多くなっている。

図2より、同じくらいに延べわな数が多くても宮之浦林道の方が大川林道に比較し捕獲数が多い。また延べわな数は中庸だが神之川林道では比較的捕獲数が多い結果となっている。

図3より、CPUEは平成22年度及び23年度は低く、効率的な捕獲は難しかったが、わな掛け技術が向上した等の理由により、多くの林道で平成24年度にはCPUEが高くなった。また、平成25年度及び26年度（平成27年1月末まで）は、24年度に比較するとCPUEが低くなった林道がほとんどであるが、宮之浦林道と神之川林道では高くなった。平成25年度以降のCPUEの低下は、捕獲技術が向上したにも係らず捕獲しづらくなったことを示すと思われるが、その理由として、該当林道における生息数の減少によるものなのか、くくりわなに慣れたスレジカが増え警戒心が増加した結果なのか検討を行う必要がある。

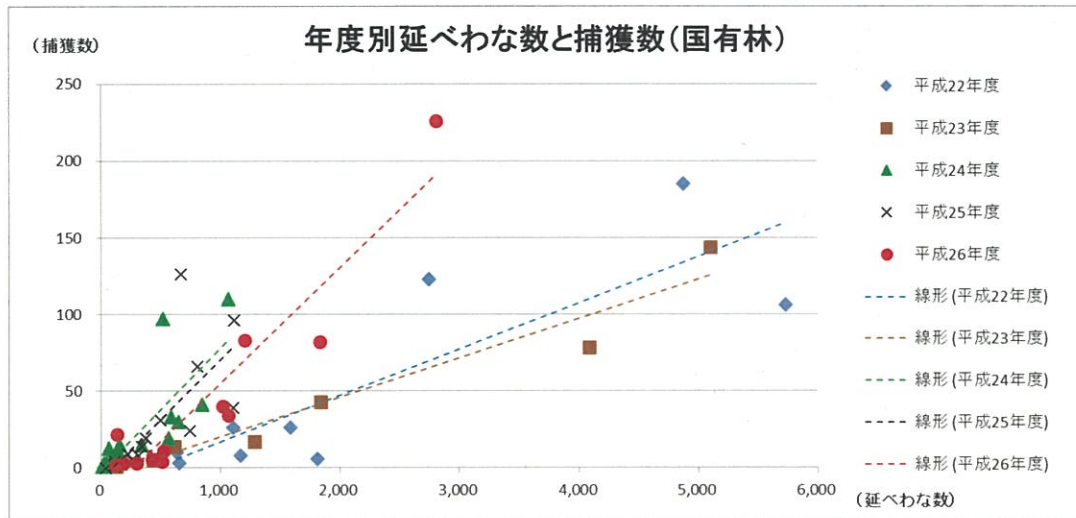


図 1 国有林における年度別の延べわな数と捕獲数の関係

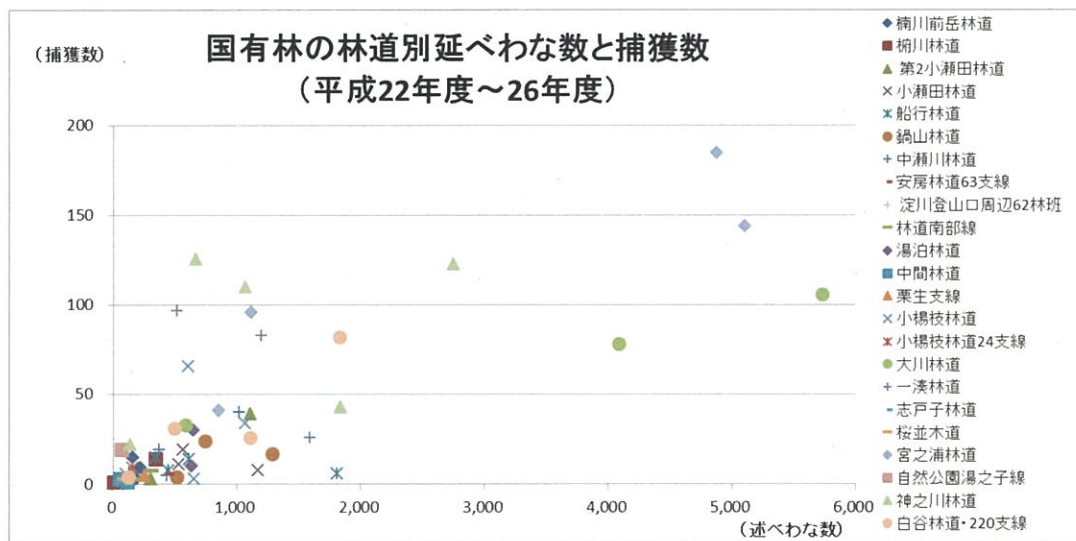


図 2 国有林における林道別の延べわな数と捕獲数との関係

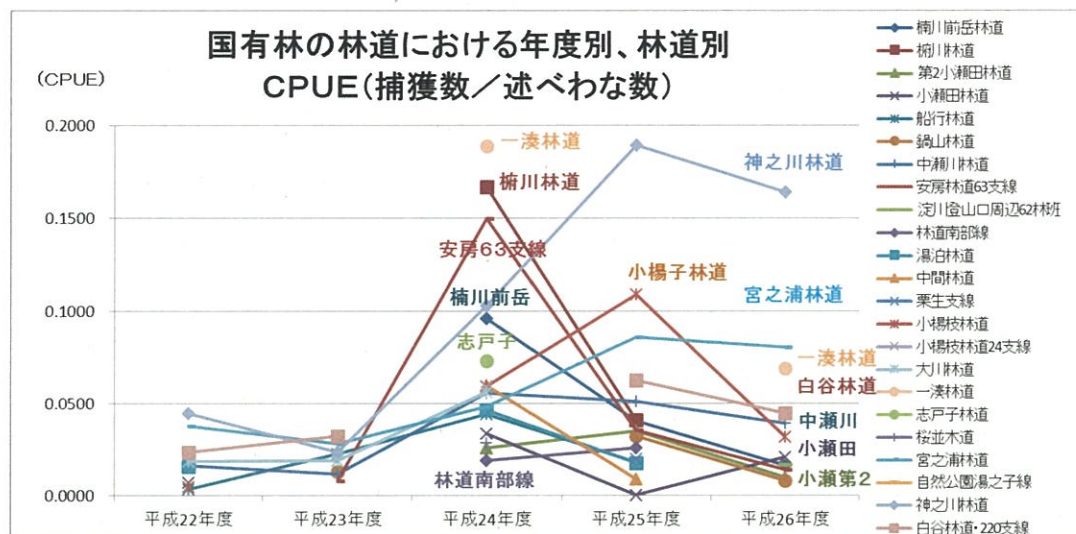


図 3 林道別、年度別の捕獲効率 CPUE (捕獲数/延べわな数) との関係

図 4～6 に、平成 24 年度～26 年度の林道別の捕獲効率 CPUE（捕獲数／延べわな数）を示す。

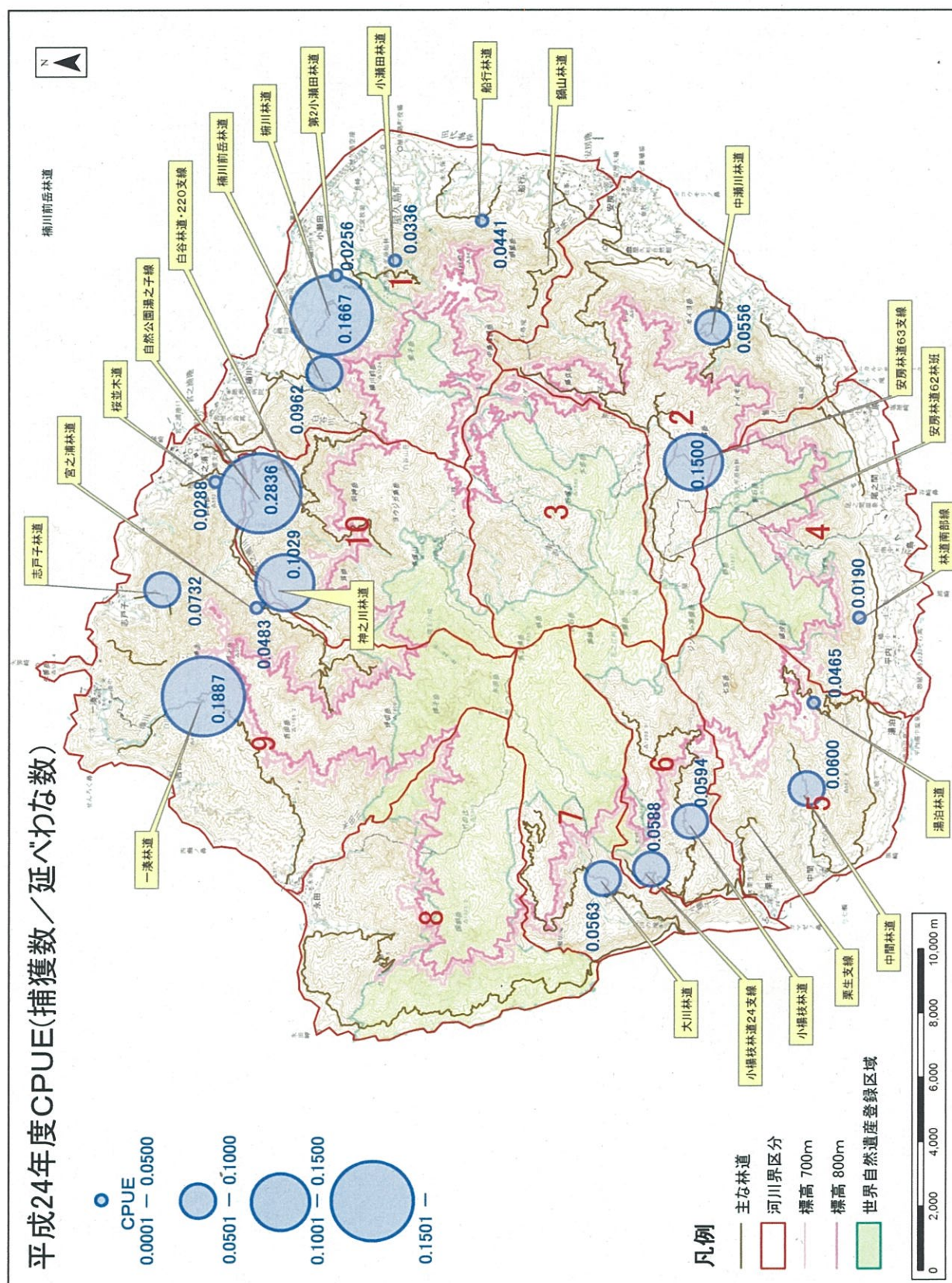


図4 平成24年度における林道別の捕獲効率 CPUE (捕獲数/延べわな数)

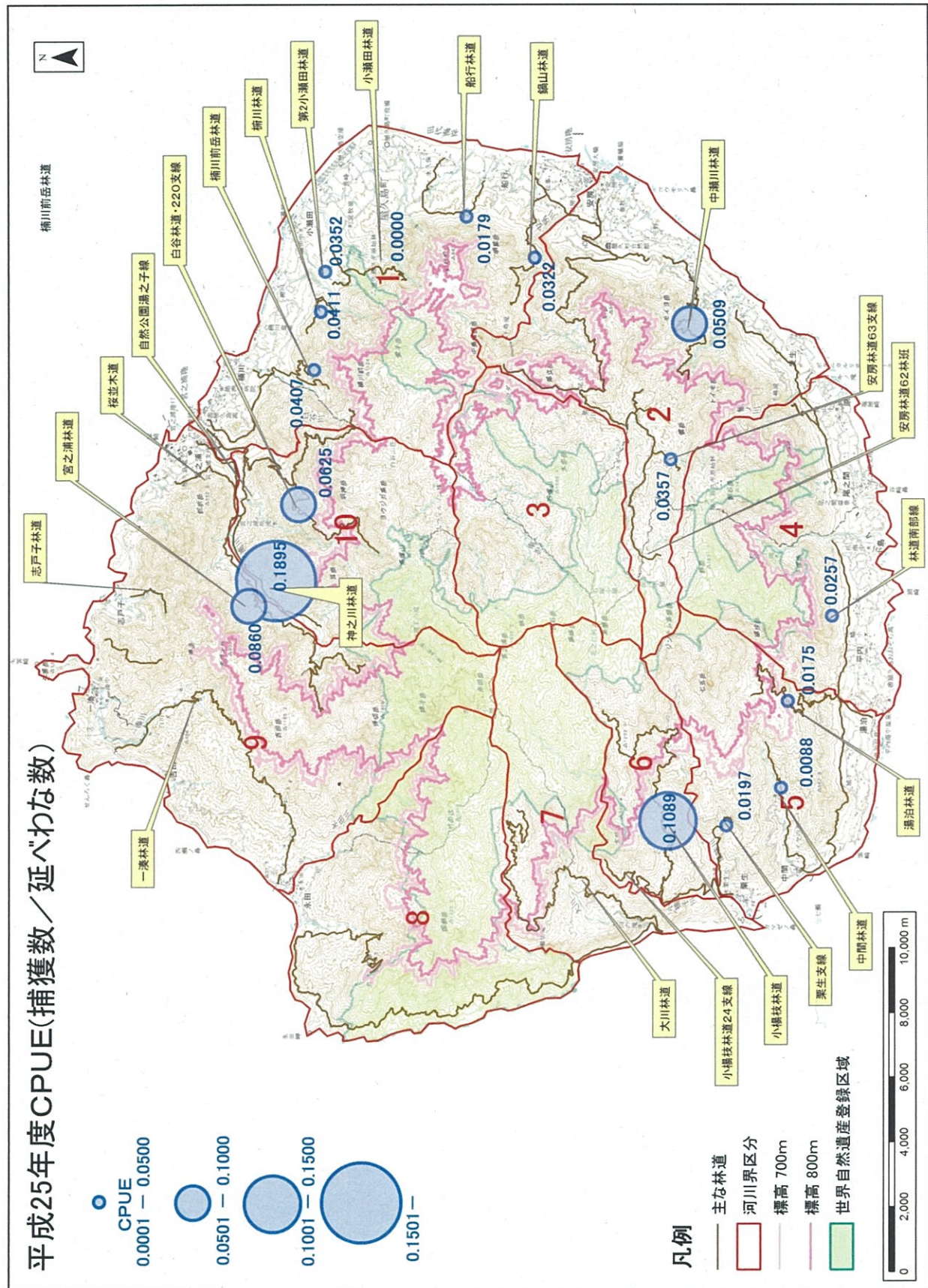


図5 平成25年度における林道別の捕獲効率CPUE(捕獲数／延べわな数)

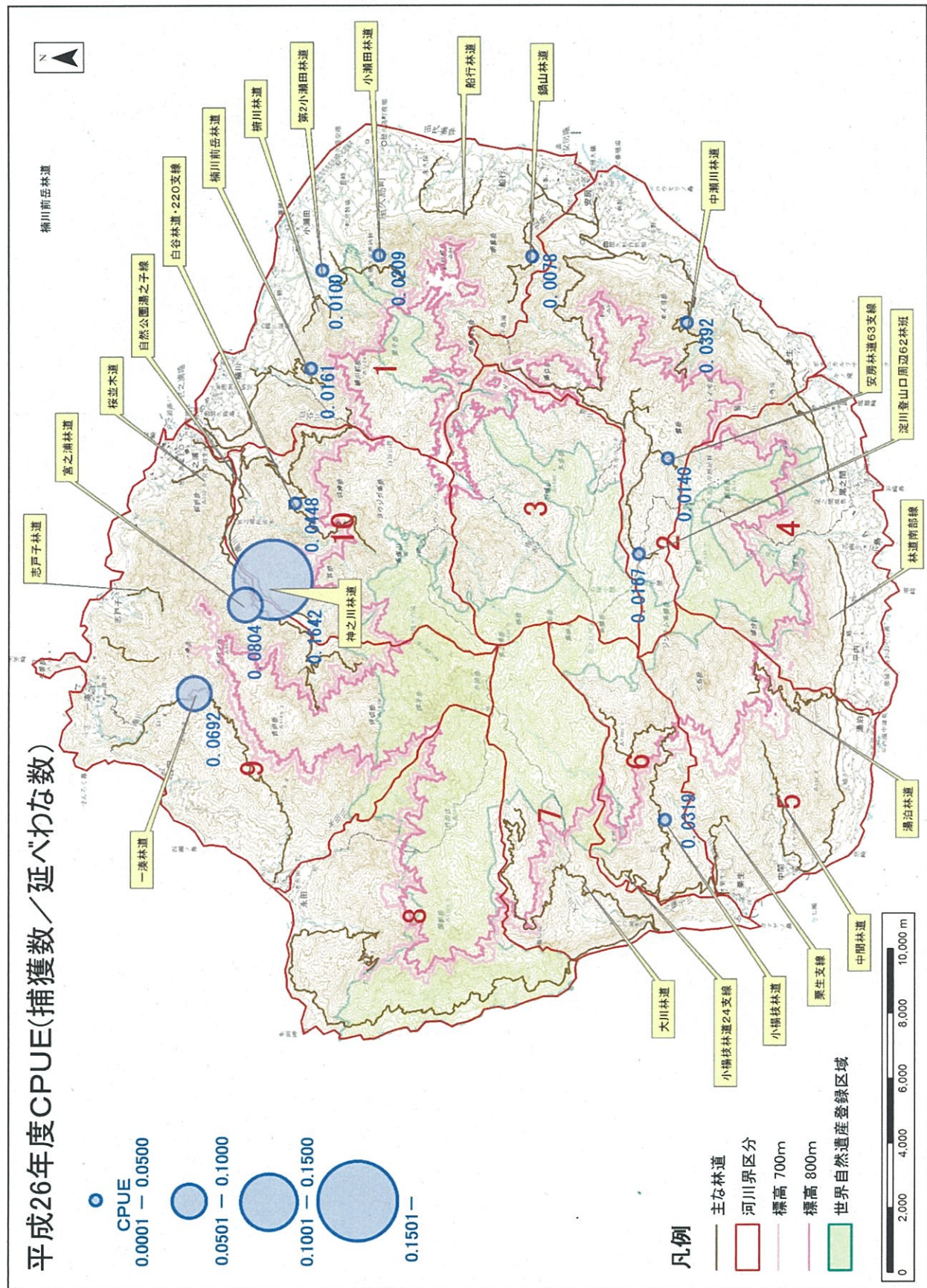


図6 平成26年度における林道別の捕獲効率 CPUE (捕獲数／延べわな数)